



一隅を照らす
6月号

377号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



仏凡同居

住職 中島 有淳

「涙が流れて仕方ありませんでした…」と、お参りが終わつた後、その方は言われました。

朝参りの友人に誘われて始めて参加された方で、本人も自分の状態にとまどっている様子でした。私も何故落涙したのか。またどういう気持ちで朝参りに参加されたか解りません。でも私はその方の顔がとても明るく、さっぱりとして輝いて見えて「良かったですね」と言いました。お堂の雰囲気と皆の唱えたお経によつてその方の「なにか」が喜んだに間違いありません…。

お経を誦することには種々な意味があります。

両手でしっかりと見て読む。この場合はお経の字を見ながら丁寧に読む訳です。誦するとは経本を手にしないで暗唱のように合掌して唱えるわけです。普段から唱えていますと割とお経に馴れて、全く別のことを考えている時があるものです。また、気持ちを集中するわけですが、時にはその時何故こうした空想が生まれただかをお経を読んでいる最中に考えたりして、楽しんだりする場合もあります…。

本来はどんなに馴染んだお経であっても、丁寧に経本を手にして目で追いつながりながら誦するのが正式です。

その功德は莫大です。このお経によって悟られ(救われた)多くの人達がいらしたことは、今日まで仏法が連綿と続いてきたことから理解できます。

法華経は「誰にも仏性がある」と教えます。仏とは人間が完成された状態で、人とは仏にむかう未完成の姿です。法華経は大乗仏教の根源をなす思想ですから、中国でも日本でもこのお経は皆学びます。

『法華経』では、仏は常にここで我々に説法をしている…(常住此説法)と説きます。

いつでも、どこでも、どんな場合でも、私達の毎日の中で靈性を磨き、仏の教えを仏性として確認できればと思います。

有名な第十六番『寿命品』はその第一句「自我得仏来(我、仏を得てより来)で始まります。その数行を紹介します。

「われ、仏を得てより来 経たる所の諸々の劫数は
無量百千万 億載阿僧祇」なり。

常に法を説きて、無数億の衆生を教化して
仏道に入らしむ それより来 無量劫なり。

衆生を度わんがためのゆえに 方便として涅槃を現わすも
しかも実には滅度せずして 常にここに住して法を説くなり。
われは常にここに住すれども 諸の神通力をもつて
顛倒の衆生をして 近しと雖もしかも見えざらしむ」

どのような人間の心の奥にも仏性が在ると信じ、その仏性を開発するのが我々の進むべき道でしょう。

自分の中の仏性に気づき、仏を恋慕しそれを磨いていく(求めていく)、この気持ちが求められます。

折りふしのはな

チガヤ

道路沿いなどで見かけ

さながら

こぎつねたちが

銀色のシツポを風になびかせ

じやれあっているかのよう

古くは

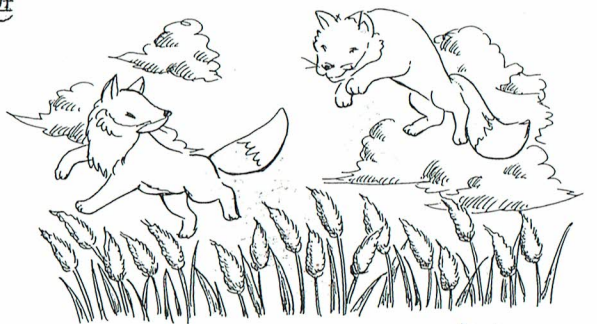
つばなと詠まれたチガヤ

悠々と

時空をたゆたう

初夏の風

(遊)



Kellco

月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈禱会 観音経誦

◎十一 日 午後二時

智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

◎十八 日 午後二時

観音経誦法要(於・神木観音堂)

◎二十八 日 午後二時

不動明王護摩供修行

* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒どうぞ

どなたさまでも
ご参詣下さい



よとちん

○コメの価格が高止まりです。農水相の不適切発言で、小泉大臣に代替。参議院選挙を控えて政府も必死。

○ロシアのウクライナ侵攻は、世界中を巻き込んで混乱しています。民主主義も共産主義も独裁主義も何か混沌として「正義」が不可解です。自由に物が言えて、食料が安定供給され、就労率が高く、安心して働けるそんな穏やかな平和な世界が、皆にありますよう。

○ローマカトリック教会の第二六七代教皇に、レオ十四世(69)が選出されました。謎めいたコンクラーベは注目の的でした。

○大相撲夏場所は大関大の里(24)(石川県出身)が優勝。二場所連続4度目で75代横綱に昇進。なんと初土俵からここまでの最速記録とか。これからどんなに強くなるのでしょうか。

○「つつじの刈り込み」が終わり、境内に清々しい風が吹いています。菩提樹の花芽もついて開花が楽しみです。掲示板にも「暫くは五月の風に甘えたい」と書きました。

○いよいよ衣替えシーズンです。網戸にして涼をとり暑い夏を迎えます。お大事にお過ごし下さい。